

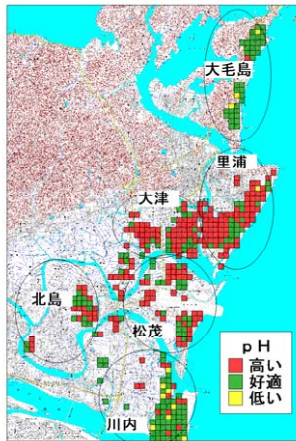


県内砂地畑土壌の地域特性

1 背景・ねらい

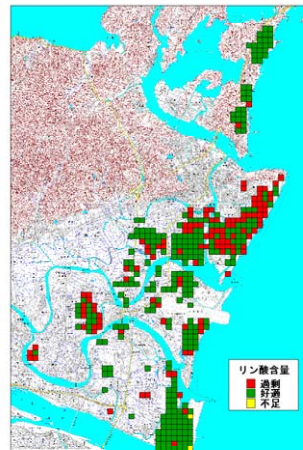
近年、高品質なサツマイモ栽培を支えている手入れ砂の入手が困難になっている。従って手入れ砂の客入量を低減させる方法や、手入れ砂の代替策等が求められているが、そのためには、砂地畑土壌の実態を把握し、砂地畑個々の土壌条件に応じた対策を講じる必要がある。そこで、県内砂地畑において一斉の土壌調査を行った。

2 成果の内容



土壌pH
好適値5.5～7.0

土壌pHの高い圃場が調査圃場全体の50%以上を占め、特に里浦、大津、松茂地域でpHの高い圃場が多く分布している。pHの高い地域は手入れ砂の客入割合が高く、その入手先は瀬戸内海産の海砂が多い。



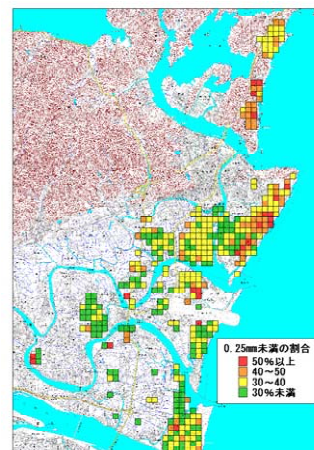
リン酸含量
好適量10～75mg/100g

土壌中のリン酸含量はほとんどの地域で好適量以上あり、里浦、北島地域では過剰な圃場が多く分布している。



カリウム含量
好適量10～25mg/100g

土壌中のカリウム含量は、調査圃場全体の60%で不足しており、特に川内地域で不足している圃場が多い。



0.25mm未満の粒子の割合

砂丘畑では、0.25mm未満の微細な粒子の占める割合が高い。砂丘畑は乾きやすいため、土壌の保水力が向上するように砂の粒子を比較的小さめに管理している結果と思われる。

以上のように本県砂地畑の土壌理化学性には地域性が認められ、特に土壌化学性は肥培管理や手入れ砂客入による要因が大きい。概ねJAの管轄地域毎の地域性が、粒径組成分布は水分変動など圃場の性質による要因が大きい。造成タイプ毎の特性が認められた。

3 成果の活用・留意点

サツマイモの収量、品質への影響が大きい高pHおよびカリウム不足の圃場では、pH矯正資材、加里質肥料等を施用し、収量、品質を低下させない土壌管理が必要である。

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 生産環境担当
TEL (088) 674-1660 FAX (088) 674-3114
<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>